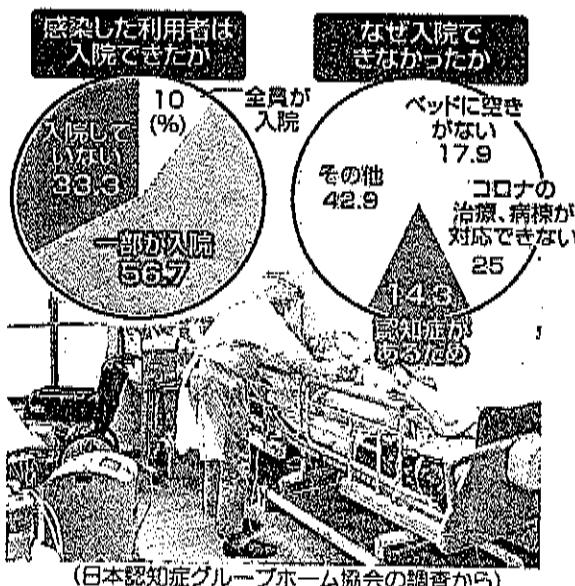


9/28 早福

新型コロナウイルスの流行第6波の今  
年一、六月、感染者が出た認知症グルー  
プホーム（GH）の九割で入院できない  
利用者がいたことが、日本認知症グルー  
プホーム協会（東京）の調査で分かっ  
た。認知症を理由に入院を拒められたり、  
早期の退院を迫られたりした事例も。G  
Hは小規模な生活の場だけに、感染対策  
に気を配っても患者への感染拡大を防げ  
ない厳しい介護環境が浮き彫りになつて  
いる。

## コロナ第6波下の 認知症グループホーム

「感染者入院できない」9割



(日本認知症グループホーム協会の調査から)

認知症グループホーム  
(認知症対応型共同生活  
介護) 認知症がある要  
介護1～5と要支援2の  
高齢者が家庭的な雰囲気  
の中で共同生活し、食事  
や入浴、排せつなどの介  
助を受ける介護保険の地  
域密着型サービス。1コ  
ニットの定員は5人以上  
9人以下と定められてい  
る。原則個室で、居間や  
食堂などの共有スペース  
を備える。住み慣れた場  
所で自分らしい暮らしを  
最期まで続ける「地域包  
括ケア」を支える柱で、  
事業所数は1万4065カ所  
(今年2月時点)で年々  
増えている。

## 第七波の八月に襲来した感染症が発生した東京都内の

居場所を分ける「ソーリング」などに対応した。ただ、徹底するのが難しい実態もある。

トボーリ協会事務理事の宮  
長定彌さん(やまと)は「JHは  
病院ではない。感染した利用  
者全員が入院できる体制  
を確保」と述べ、「心配を  
している。

## 介護職の医療ケア 困難

「クループホークあすか王子」では利用者を個室ごとに分けて、密接な会話を防ぐ

でも「スムーズにできた」のは 57・5% で、42・5%

が「苦労して入院させた」と回答。この中には「体が動かない人や、延命治療を希望しないのが入院の条件」といった語句も見受けられる。

件」などとされが事例があつた。入院できなかつた理由については、14・3%

の事業所か「認知症入院の障害になつた」と答えた。

事業所の88%が、感染者の居場所を分ける「ソーニング」を行っている。

だ、徹底するのが難しい実感もある。

## 第七波のハリケーンが発生した東海岸の凶災

トボーリ協会(医務管理の実践)は「GHE」は  
最長期もん(?)だ。「GHE」は  
病院ではない。感染した利用者  
用者金員が入院できる体制  
を確保してほしこ」と語る  
ところ。